アシュラム
ASHRAM

2026.10月第694号

発行所　アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編　集　アシュラム誌編集委員会

振　替　01050-6-53772
アシュラムセンター

印　刷　明文舎印刷商事（株）

解　題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

瞑想

主の栄光を現す器

（出エジプト40）

主幹牧師　榎本　恵

出エジプト記40章は、主がモーセに命じた幕屋建設の詳細が記された章である。しかし、その記述は、モーセが主の仰せの一言一句違えず全てをなし終えたということだけにはとどまらないのである。幕屋が建てられた後、神はモーセに命じて、幕屋とその中にあるすべての器具に聖なる油を注がせ、これを聖別された。祭壇も、燭台も、供えのパンの机も、洗盤も、すべてが神のものとして取り分けられたのである。また、アロンとその子らも水によって身を清められ、油を注がれ、祭司として聖別された。

ここで心しておかなければいけないのは、「聖別」とは、人より優れた特別な者になることではないということである。それは宗教的なエリート意識とは正反対のものなのだ。自らを分離し（ファリサイ）、汚れたものから遠ざかることによって保たれる聖さではない。むしろ、そのただ中へと自ら入っていく聖さなのである。神の前に自分を低くし、自らを神のものとして差し出して生きること。聖別の油とは、まさに神から一方的に注がれる恵みのしるしなのである。

ところが、いつの時代にも、人はその聖別の真の意味を見失ってきた。外側を洗い、儀式を守ることによって清くなること自体が目的となり、神の前にへりくだる聖い心が失われていったのである。主イエスが、「人を汚すのは外から入るものではなく、内から出てくるものである」（マルコ7：14）と語られたのは、まさにそのことである。神がご覧になるのは外側ではない。その内にある人の心なのである。

近江兄弟社の創設者ウィリアム・メレル・ヴォーリズは、その著書『吾家の設備』の中で、外から見れば立派な家でも、中に入ってみると失望することが少なくないと語り、建物の価値は外観ではなく、その内側にあると説いた。

「Show me your house, and I will tell you what you are.（あなたの家を見せてください。そうすれば、あなたがどのような人か分かります。）」

これは、主イエスの言葉にも通じるヴォーリズの建築思想をよく表す言葉である。ヴォーリズにとって建築とは、自らの作品を誇るためのものではなく、キリストの愛を証しする伝道そのものであった。建物の品格は、その内に流れる信仰と人格によって決まる。それはまさに、主が人の外側ではなく、その内側をご覧になるという福音の精神そのものなのだ。

出エジプト記40章は、こう結ばれる。「雲は臨在の幕屋を覆い、主の栄光が幕屋に満ちた。」（40：34）幕屋建設の目的は、立派な建物を完成させることではなかった。主の栄光がそこに宿ることこそ、その目的であったのである。どれほど美しく整えられた幕屋であっても、主の栄光が満ちなければ、それはただの建物にすぎない。しかし、土から造られた器であっても、神が聖別し、そこに主の栄光が宿るなら、それは神のために用いられる尊い器となる。そして、その幕屋とはとりもなおさず私たち自身なのである。パウロは語る。「あなたがたは神の神殿である」（1コリ3：17）と、またさらに告げる。「私たちは皆、主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと主と同じ姿に変えられていく」（2コリ3：18）と。

友よ、私たちが目指すべきものもまた、外面的な立派さではない。自らを誇ることでも、人より聖い者となることでもない。主の前にへりくだり、聖霊の油を注がれ、神のものとして取り分けられ、主の御用に用いられる、主の栄光を映し出すものとなろうよ。

福岡一日アシュラムに参加して


日本キリスト教団福岡中部教会にて

中村　信生

7月20日海の日。日本基督教団福岡中部教会に集い、第29回福岡一日アシュラムがスタートしました。今回は新しい人も加わり、26名での充実した豊かな時となりました。

〝しかし、ただ一つの日が来る。その日は主にのみ知らされている。その時は昼もなければ、夜もなく、夕べになっても光がある。〟ゼカリヤ書14章7節

私たちが永遠に生きるとき〝只今〟があるだけ。主は〝おかえり〟と迎えてくださる。その主を仰ぎ見、その御腕に抱かれるとき、私たちは心の底から〝ただいま〟と言うことができる。

〝永遠の命とは、唯一の神であるあなたと、あなたがお遣わしになったイエス・キリストを知ることです〟ヨハネ17章3節

このアシュラムで、〝おかえり〟と迎えられ、〝ただいま〟と応える、その〝ただ一つの時〟が、あなたに与えられますように。「巻頭言より」

榎本恵先生の開会礼拝、オリエンテーションの後、五つのファミリーに分かれて開心の時・静聴にて分かち合いと祈り、賛美の時を持ちました。私のファミリーは第4グループ、5人で〝ルカの部屋〟で皆さん朝祷会や同教会の方々で充実の時を持ちました。

昼食の時は、この一年ぶり懐かしいお顔を拝見しながら自己紹介。近況報告などで豊かな時間を過ごしました。

恵みの時、分かち合いで、お一人お一人の祈りの課題を頂き、ともに祈りを分かち合うことができました。

充満の時を経て、また一年後の再会を期して手をつなぎ、輪になって賛美歌を歌い、名残惜しい時を終えました。榎本先生、奥様、スタッフの方々、ありがとうございました。

（日本基督教団　福岡城東橋教会）

熊本地震被災地の八代への救援報告

樋口　洋一

7月28日の最大震度7の熊本地震。震源地に近い日本キリスト教団八代教会は、断水が最も深刻な問題となりました。そのため、八代教会付属の聖愛幼稚園は、一時休園を余儀なくされました。

8月1日に水250リットルくらい軽乗用車に積んで、八代に向かいました。島原港発7時のフェリーに乗って熊本港着8時。熊本港－八代は通常1時間です。しかし、過積載でスピードを出せず、渋滞や通行止めなどにより、2時間かけて10時過ぎ八代教会に到着しました。

「被災しているにもかかわらず、信徒は礼拝に集まる。自分も準備ができないが説教する」と、八代教会の梅崎浩二牧師は言っていました。「川の水でかまわないから、生活用水が欲しい」「君に出したスポーツドリンクより、普通の水の方が遥かに

高価だ」という梅崎牧師の言葉が、その時の被災地の現状を良く表しています。

再度8月7日に水を軽乗用車に積んで、八代教会に行ってきました。前回よりも30分早く着きました。交通渋滞が緩和され、物流の回復を感じました。聖愛幼稚園は半日保育で園を再開していました。運んだ水は全て、園の生活用水として用いていただくことになりました。



この働きのために、アシュラムセンターのヨセフ基金の援助を受けました。深く感謝いたします。

（日本基督教団島原教会牧師・Ｚｏｏｍ、早天の友）

第30回 三重一日アシュラム 感謝

榎本　恵

「一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。」ルカ10：38

イエスは主なり。

三重の地にアシュラムの灯がともされてから30年。この長い年月の間、多くの方々の祈りと献身によって守られ、この集会が受け継がれてきたことを思う時、深い感謝と畏れを覚えます。節目となる今回のアシュラムを共に持つことができましたことを、主に感謝いたします。また、アシュラムセンター主催となって2回目の開催でしたが、この働きを温かく受け入れ、準備し、支えてくださった地元三重の皆様のご奉仕に、心から御礼申し上げます。

今回共に聞いたマルタとマリアの物語は、私たちに大切なことを教えてくれます。主はマルタの奉仕そのものを叱られたのではありません。むしろ、その熱心な奉仕が、まず主の御声に耳を傾けることから始まるようにと招かれたのです。祈りは奉仕に先立ち、奉仕は再び祈りへと私たちを導きます。

アシュラムもまた、「主に聞く」ことから始まる運動です。私たちはこれからも、マリアが選んだ「良い方」を選び続けたいと願います。そして、その良い方から力と慰めを受けながら、それぞれの場所で主と人に仕える者として歩んでまいりましょう。

皆様の上に、主の豊かな祝福と憐れみが注がれますようお祈り申し上げます。

主の平和のうちに。

（アシュラムセンター主幹牧師）



近畿福音ルーテル津教会

皆様からのヨセフ基金ご献金、コツコツと積み立てられ、この度、10万円を樋口洋一師に託し、被災地のため用いて頂くことができました。感謝致します。引き続き、ヨセフ基金へのご献金、よろしくお願い致します。

「天上の友を憶える日の礼拝2026」11月21日（土）PM2時～　シメオン庭にて。
どなたでもご参列できます。お待ちしています。天上の友と共に。

みもとに

◆正岡リツコ姉の思い出　（橋本 るつ子）

りっちゃん、おくさんと呼びあった今治教会の正岡リツコ姉が、8月1日に天に召されました。母（榎本和子）とは今治教会で出会い、お互い信仰によって固く結びあった、とても仲の良い友人でした。

ご主人を早く亡くされ、その仕事を引き継ぎ、大変な中にも笑顔を絶やさず、いつも牧師一家を温かく支えてくださいました。父（榎本保郎）が今治教会を離れ近江八幡に来てからも、また、召天後も変わらず、お互いの誕生日には必ず電話をし、励まし合っていました。

今は天国で再会の喜びを味わっていることでしょう。



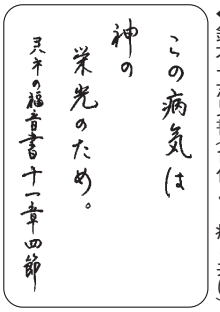
←第1回四国一日アシュラムにて。喜びの再会！2019年6月。

◆鈴木一志兄へ　（松原 千里）

鈴木家が伏見にあった時は、鈴木家の家庭集会に行かせていただいておりました。一志兄のご両親は、北白川教会の創立者。初代の奥田成孝先生たちと共に。一志兄は、私にとって信仰の灯火のようなご存在でした。榎本保郎（ちいろば先生）先生が、鈴木家に一志兄を励ましに来てくださってた、とお聞きしたことがありました。／榎本保郎先生、和子様、一志様、天で主と共に　地上の我らを　見守ってくださいませ。尊い歩みに感謝でいっぱいです。　（北白川教会）



←クリスマス祝会にて。美しい賛美を独唱下さった。2016年12月（アンナ祈りの家）。



←鈴木一志兄書（10代より病と共に）

◆山田秀穂兄の思い出　（瀬戸 昭）

山田秀穂さんは2026年7月25日に召天されました。享年90歳でした。山田秀穂さんとの思い出は、緑豊かな猪瀬さんのお宅（広野祈りの家）で、猪瀬さんが心を込めて準備してくださったお昼ご飯を一緒に食べ、み言葉を聞き、それぞれの人が心に留めたみ言葉について語り合うという霊的な豊かな交わりの時を共に持てたということでした。

山田さん夫妻は、毎回熱心に参加されていました。猪瀬さんが召天され、広野祈りの家での集会がなくなるかわりに、阪神ミニアシュラムを聖愛教会でしようと熱心に働きかけてくださったのも山田さんでした。山田さんは伝道に熱心で、「今受けている神さまの愛と祝福を自分だけのものとせずに、その受けた恵みの証人として伝えていく」のだと伝道への思いを語られ、教会に対してもさまざまな提言をされていました。また、神のご恩寵により生かされていることに感謝し、障害のある人もない人も共に励ましあって生きていきたいと、兵庫共励会の活動にも参加されていました。山田さんのアシュラムに対する思いと、伝道に対する思いを少しでも引き継いでいけたらと願っています。　（神戸聖愛教会）



←国際正義・平和アシュラムin神戸。聖愛教会にて世話役感謝！2019年9月。



尾崎恵姉、ホスピス入院中、Zoomで、早天祈祷会に。生き生きと参加されるお姿に、皆、心打たれ励まされ…（召天1ヶ月前）



今年も8月1日、尾崎幹二様いらしてくださいました！今回は、バイクではなく、車で。恵姉の妹様共に。恵姉の思い出話たっぷりと。



埼玉より、車で。木下文隆兄は、沖縄巡礼の旅の初期（10年以上前）に、ご家族で参加。今回、涙の再会！お連れくださった信仰の友の皆様に感謝。召天された光江姉もきっと共に。

シメオンの風 13 「シメオンとアベルモン宣教師　」　市橋 惠子

アベルモン宣教師が、この10月に任期を終えてブラジルへ帰国されます。三年間、シメオン黙想の家とは目と鼻の先にあるアシュラムセンターの「修道場」に住まわれ、センターや近隣地域の様々なプログラムに参加され、また、奉仕されました。

アベルモン宣教師がブラジル出身とうかがい、陽気なラテンのリズムのノリの方かと思いきや（それはこちらの勝手な思い込み）、控えめで繊細で含羞をおびた、たたずまいの静かな方でした。

師とシメオン黙想の家の結びつきといえば、まずラビリンスの庭にある人工池のお世話です。今では蓮が大きな花を咲かせ、多様な水中生物の棲み処となりました。また、アンナやシメオンの庭を会場に始まった子どもアシュラムでは、昨年は子どもたちのためにケーキを焼いてくださいました（オーブンの機能が足りなくて生焼けになり、子どもたちには届きませんでしたが）。今年は小さなスイーツグッズの袋をみ言葉のカードを添えて子どもたち一人一人に準備してくださいました。屋外でのアクティビティでは、水ヨーヨー釣り、今年始まった缶バッジつくりでは、器用にその機械を動かして、子どもたちとかかわり遊んでくださいました。アベルモン宣教師が去られた後も、この池が訪れる方々に安らぎと憩いの場となりますように。子どもアシュラムも若い方によって継承できますようにと祈ります。アベルモン宣教師、ありがとうございました。神様の祝福を祈ります。


缶バッジ作りはお任せ！

いえじま 雑記 38 「ひとり」

妻と子どもたちが滋賀と岐阜に里帰りし、この夏、ぼくはひとり伊江島で留守番することになりました。子どもが産まれて以来、ひとりで出張することはあっても、家でひとり留守番をすることははじめてで、いつもより静かな部屋にこもって、そろそろけりをつけなければならない、書きかけの文章と向き合う毎日です。

もちろんそれで仕事が捗るかといえばそういうわけでもなく、SNSを見たり、うとうとしたり、音楽を聴いたり、本を読んだり。家にこもっていては煮詰まるなと思って、カフェに行ってみたり、プールに行ってみたり、買い物に行ってみたり。まったく仕事は進まず、それでも近づいてくる締め切りに焦りだけが募ります。

ひとりでもがんばれるのは料理くらいで、カップラーメンなどで済ますのはなんだか気が引けて、だれが食べるでもないのに、鶏肉をスパイスに漬け込んだりしています。一人分の料理を作るというのはなかなか難しいもので、結局作りすぎてしまい、必要以上に満腹になった体を抱えて、眠りにつくことになります。そうこうしているうちに八月も終わりに近づき、伊江島には今年何度目かの台風がやってくるようです。フェリーも止まり、ぼくはこの家でひとり、閉じこもります。 **榎本 空（ノースカロライナ大学院生、翻訳家、沖縄伊江島在住）**


【空（6才）のしりとり】きつね（前号は？〝めだまやき〟でした）

あ と が き

今月は、立て続けにアシュラムの友の訃報に接した。皆、長きにわたってアシュラムの歩みを支え、熱心な信仰者として、その生涯を全うされた方々である。

お一人お一人のお姿を思い起こしながら、パウロの言葉が心に響く。

「わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。」（二テモテ４・７）

信仰の生涯を走り抜かれた先達を天に送りながら、後に残された私たちもまた、その姿に倣い、それぞれに定められた道を走り抜いていきたいと思う。

昨年、アシュラムセンターは設立50周年を迎えた。そして来年は、初代主幹牧師・榎本保郎の召天50年を迎える。半世紀という歳月の中で、アシュラムの草創期を知る方々も、次第に少なくなってきた。

それはまた、敗戦から81年を迎えた日本の姿とも重なって見える。時代が移り、人が代わっていく中で、記憶はどうしても薄れていく。しかし、決して忘れてはならないことがある。そして、忘れないためには、次の世代へ手渡していかなければならないものがある。

信仰もまた、そうして手渡されてきたのではないだろうか。

先達たちが祈りながら受け取り、守り、そして私たちへと手渡してくださったもの。その大切なものを、今度は私たちがしっかりと受け取り、次の人へと手渡していく。

そのためにも、私たちは今日、自分に定められた道を、一歩一歩、走り続けたい。

いつの日か私たちも、「信仰を守り抜きました」と言える日まで。　（恵）

和子母 召天３年目の夏に


義兄　圭兄　真一兄

和子母方の親戚。懐かしい昔話尽きず。



るつこ姉の友。下関から安本親子里帰り途中、早天参加。

〈子どもアシュラム感想Ⅰ〉

春「缶バッジ作りがたのしかった！夜、みんなで遊んでおもしろかった★」　道「うちわ作りが楽しかった！みんなで歌を歌っておもしろかった♪」

9月15日の大阪聖書教室 開催場所変更！ 於「堺大浜キリスト教会」AM10時～
住所：〒590-0976 大阪府堺市堺区大浜南町2丁8-18 TEL：072-222-2904



いかに幸いなことでしょう　あなたの家に住むことができるなら
ましてあなたを賛美することができるなら。詩84・5

榎本恵子

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】0748－33－4030 アシュラムセンター
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080－3983－8140

10月の聖書教室など

2(金)	阪神ミニアシュラム（神戸聖愛教会 PM1:00）
12(月)	福岡聖書教室（福岡中部教会 PM1:30）
20(火)	大阪聖書教室（大阪クリスチャンセンター AM10:30）
21(水)	みんなのカフェちいろば聖書入門講座（京都・伏見区深草 PM1:30）
23(金)	センター聖書教室（アシュラムセンター AM11:00）
25(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝（PM5:00） 配信あり
26(月)	静岡聖書教室（旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30）
27(火)	東京聖書教室（御茶ノ水クリスチャンセンター４F AM10:30）
27(火)	しみじみする会（桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30）

10月のアシュラムなど

5(月)	第50回 山陰アシュラム 奉仕者　山陰アシュラムメンバー	080－5493－9242 遠藤誠一師
12(月)〜14(水)	第51回 加太アシュラム 奉仕者　春名　康範師	052－721－0045 仙敷正俊師
20(火)	第30回 埼玉一日アシュラム 奉仕者　秋山　信夫師	090－2919－3811 秋山信夫師
22(木)〜24(土)	修道場アシュラム 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター
31(土)	第7回 水戸バプテスト教会アシュラム 奉仕者　榎本　恵師	029－248－6751 水戸バプテスト教会
31(土)	第23回 愛知一日アシュラム 奉仕者　秋山　信夫師	052－721－0045 仙敷正俊師

11月以降のアシュラム予定

11/2(月)〜4(水)	第51回 京浜アシュラム
11/19(木)〜21(土)	修道場アシュラム
11/21(土)	天上の友を憶える日礼拝（PM2:00）
11/28(土)	第７回 四国一日アシュラム

〈今月の和子母自筆聖句(欄外左)紙裏面より〉

一九七七年、保郎を失ってこれから先どうしたら良いかと悩んでいた時、神様から行く道を与えられたこのみ言葉、アシュラムセンターに二人の子供と残ることだった。今はこのみ言葉に従って良かったとしみじみ思う日々です。



1975年、センター近江八幡にて誕生。2年後保郎師召天。来年50周年。

みことば



シメオン池の蓮7つ！

京都大学名誉教授
アシュラムセンター研究員
河崎靖

スタンリー・ジョーンズと クリスチャンアシュラム運動⑥

1930年、キリスト教アシュラム運動の創設者スタンリー・ジョーンズは、現在のウッタラーカンド州(インド)サッタルSattalにキリスト教のアシュラムを設立し、その後の国際的なアシュラム運動の礎とした。これに先立つ1850〜1900年、インドにおけるキリスト教の宣教は、マドラス管区[1]で目覚ましい勢いを見せていた。当時の政治的・精神的指導者の一人、マハトマ・ガンジー（Mahatma Gandhi）は、自らをヒンズー教徒と称していたが、彼自身にとっては、キリスト教を理解するのに3つの時期のプロセスがあったという。

時系列的に、彼の人生の最初の30年の間に、インド（1869－1887年)・イギリス（1888－1891年)・南アフリカ（1893－1899年）という時期の間に、ガンジーはキリスト教徒、ならびに、その教えに出会い、探求心を強く刺激されたのである。彼は、さまざまな東洋の宗教の中で最良だと考えたものを融合させた世界観に導かれていたわけであったが、彼自身の世界観とキリスト教の間には連続性があると認識していたという。

もともとキリスト教の福音伝道を遂行せんとする営為は、1600年から1900年の間に、特にスペイン・ポルトガルに起源をもつヨーロッパの植民地事業と連携して行われてきた経緯がある。[2] その結果、アジアでの伝道活動は現地の人々には疑いの目で見られがちであり、キリスト教宣教師は地元の文化遺産を破壊する存在としてしばしば非難されることであった。[3] こうした伝道活動に対する現場の右翼の激しい反対は並大抵ではなく、このような状況の中、プロテスタント系キリスト教徒の集団は、[4] 独立した教会および支援団体を結成し、対抗を試みることになった。[5]

1 インドの東海岸、ベンガル湾に面した港湾都市。1639年、東インド会社が拠点を建設、それ以来イギリス植民地支配の中心地の一つとなった。イギリス本国とインド、さらに東南アジアや東アジアとの交易で繁栄した。現在は本来の地名であるチェンナイに戻されている。

2 帝国主義に守られた福音伝道はどうしても地元の文化を軽視する傾向がある。これはグローバリゼーションの好ましくない側面である。イギリス植民地主義下で、西洋の教育・行政機関・市場経済の発達は、地元の伝統的な社会構造・政治制度・宗教的信念などに消すことのできないほどの影響を残した。

3 キリスト教は西洋の帝国主義に伴う事業であるという認識は根強かった。

4 主に官僚・弁護士・教師などである。

5 イギリス統治はインドに対する神の配慮の表れであるという宣教師の信念があったことも事実である。



〈誕生者への祈り(早天祈祷会にて)〉お誕生日の方も、私達も同じく、日々「立ち帰れ、立ち帰れ」という主の御声に聴きながら、新しい一年を歩んでいくことができますように。　エレミア書四章（北海道にて）　恵　8月25日